



「学びがいのある魅力的な学習課題づくり」 Vol. 9

～人物の働きを理解させる～

《小学校6年歴史「明治の国づくりを進めた人々」～福沢諭吉を例に～》

小学校の歴史における人物学習のねらいは、次のとおりです。

歴史上の人物が、当時の世の中の課題をいかに解決し、
国家・社会の発展に貢献したかを理解させること。



今回は、福沢諭吉を取り上げた実践例を紹介します。

福沢諭吉は、一万円札の肖像となっている人物です。一万円札と言えば「福沢諭吉」と誰もが思い浮かぶくらい、その名は人々に広く親しまれています。今や日本で最も有名な歴史人物の一人と言ってもいいかも知れません。福沢諭吉は、お札になった人物の中で最も長い期間（30年間）お札の肖像になっています。※ 平成26年7月現在

しかし、その人物像といえば、「慶應義塾大学の創始者」「『学問のすゝめ』を書いた」という程度のことしか知られていないのではないのでしょうか。

そこで、学習課題、

「一万円札の肖像がなぜ、福沢諭吉なのでしょう」

を追究させることで、幕末、明治と日本の在り方に大きな示唆を与えた「福沢諭吉」の業績に迫っていきます。

授業では、まず始めに、「お札にはどうして人物が描かれているのか」という問いを投げかけ、その3つの理由について確認します。

1つ目は「偽造防止」

2つ目は「金種を分かり易く区別する」

3つ目は「人物の業績を再認識して親近感をもってもらう」

（パンフレット『お金の話あれこれ』作成・発行：日本銀行より）



次に、3つ目の理由に着目させ、「前的一万円札の肖像がなぜ、聖徳太子となったのか」を考えさせます。既習の聖徳太子をモデルとして考えた後で、福沢諭吉の業績について追究させるという流れです。

次ページに掲載した事柄が、それぞれの人物の主な業績として考えられます。



① まずは、既習の聖徳太子の業績について確かめる

- 冠位十二階を定めて、門閥主義を排し、有能な人材を登用した。
- 十七条憲法を制定して、天皇中心の国家理念と道徳を提示した。
- 小野妹子を隋へ派遣し、隋と対等な国交を開くことに成功した。
- 法隆寺を建立するなど仏教を厚く信仰し、興隆に努めた。



② 次に、未習の福沢諭吉の業績について調べる

- 西洋文化のエキスパートとしての見識を獲得し、『西洋事情』という書物で西洋の科学や文化を分かりやすく紹介した。
- 『学問のすゝめ』を刊行し、「一身独立、独立自尊の精神」を強調し、その後の教育や西洋に対するスタンスに大きな影響を与えた。
- 明治元（1868）年に、慶應義塾を正式に開塾した。

『学問のすゝめ』は計 17 編が刊行され、累計の発行部数は 340 万部以上にもなる空前の大ベストセラーであり、その後の教育や日本の西洋に対するスタンスに大きな影響を与えました。諭吉は、著作活動を積極的に行い、新しい国や社会のあり方を説き続けました。

諭吉は、他にも様々な活動を行っています。『時事新報』という新聞を創刊し、ジャーナリズムの分野にも進出。細菌学者の北里柴三郎が、研究所を設立した際の支援も行いました。

諭吉は理想を語ると同時に、現実を見極めるという冷静な視点を持っていました。当時の日本は非常に不安定な時期で、西洋文明の圧倒的な力の前に、いつ転覆してもおかしくない状況でした。そんな中で、理想を語るだけに留まらず、西洋へ渡り見識を広め、帰国後に本を出し、新聞を発行し、学校をつくるなど、実際に行動を起こした諭吉だからこそ人々に広く支持され、偉人として名を残しているのでしょう。

1901年2月3日に諭吉は亡くなりました。葬儀には1万人を超える人々が集まり、諭吉を見送ったそうです。

③ 最後に、歴史人物全般について振り返る

？

次の1万円札の肖像はだれになるかな？
それはなぜ？

最後に、「次の1万円札の肖像はだれになると思いますか」という問いを投げかけることにより、これまでに学習した多くの歴史人物の業績について振り返ることにつながります。

★まとめ★

人物の働きを理解させるためには、次のことが大切です。

- 「いつ」「どこで」「何を」「どうした」といった基本的な事実を押さえること。
- 人物の業績と当時の歴史的背景を関連付けて、人物の働きがよりよい国家・社会の形成につながったことに気付くことができるようにすること。